

令和4年度 第4回地方独立行政法人徳島県鳴門病院評価委員会 議事録

日 時：令和5年1月19日（木） 19：00～19：45

場 所：（Web開催） ※事務局等は県庁1106会議室

出席者：（評価委員） 稲井委員、北畑委員、志摩委員、田中委員、吉田委員
（鳴門病院） 森理事長、邊見院長、阿川副院長、喜来看護局長、土居事務局長、
今崎看護局副局長、竹岡事務局副局長、檜本事務局次長、
原田経営戦略課長

議題 徳島県鳴門病院第3期中期計画（変更案）について

・鳴門病院から、資料1に基づき説明

<質疑応答>

（委員長）

ただ今のご説明に関して何かご意見、ご質問等、委員の方からお願いいたします。

（委員）

ご丁寧なご説明ありがとうございます。やはりコロナ禍の中で、臨地実習がなかなか出来ない状況で、新人の方々が不安を持ち離職率も高いという風なアンケートも出ておりますので、そんな意味では、しっかりと職場の中での研修体制が取られるというのは、安心出来るのかなと思います。

また、新人の方々が、就職をする時、学生さんが就職をする時というのは、新人体制がいかにかしっかりされているかという所も選ぶ理由になるという風にも聞いておりますので、そんな意味でも、今後鳴門病院に就職を選択するという方も増えてくると思いますので、そういう意味では良い看護、専門性の高い看護を提供出来る為に、やはり是非引き続き、こういう体制を整えていただけたらと思います。ありがとうございました。

（委員長）

はい。医師の研修医制度と同じで、非常に興味深いというか、良い制度のように思います。よろしいでしょうか。他、何かご質問、ご意見ございませんか。

（委員）

ページ3の、役割・機能の最適化と連携の強化という所なんですけれども、2025年の病床数が307、これは現状を維持するという事でよろしい、病床数としては現状維持するという事でよろしいでしょうか。

（委員長）

鳴門病院、よろしくをお願いいたします。

(鳴門病院)

昨年度開かれた会議におきまして、了承いただいております、この307現状の維持という事で、現時点ではこの数字という事でお願いしております。

(委員)

何度か会に出た時に数が減る、急性期が減る、回復期が増える、色々あったのですけれども、今現在はどの位開いているのでしょうか、病床数は。コロナ対策とか看護師不足等々で減っていくという話は聞いたのですけれども、現状はいかがなものなのでしょうか。

(鳴門病院)

現状につきましては、新型コロナの重点医療機関といたしましての、病棟の運用をしております関係で、183床という病床数で、今現在は運営を行っております。

(委員)

あと2年間で130戻すという、考え方でよろしいですね。今現在は。

(鳴門病院)

はい、そのような事で計画をしております。

(委員)

はい、どうもありがとうございます。

もう1つ、そのイの方なんですけれども、上から3行目、冒頭で。明確化し、という言葉があるのですけれども、これは具体的などのような事を考えておられますか。イの上から3行目の、役割・機能を明確化し、という文章があるのですけれども。今現在の考え方でよろしいのですけれども。具体的にどのような事を考えておられるのか、という事がありましたらお願いしたいと思うのですけれども。

(鳴門病院)

包括ケアシステムを進化させるという意味において、私達のコロナ病棟の後の病棟を使う時にやはり先生方から、いわゆるクリニックの中で慢性疾患等々を診てらっしゃる時の急変に対する対応をしてそこで収容出来る一定数のベッドを確保したいし、それから、整形外科とか、脳外科とか内科とかで、長期のやはりリハビリを要するような方を地域包括ケア病棟でまたそこでも一定数診て、機能的には、そういう、ポストアキュートと、サブアキュートという、その2つの両方共に対応出来たらと考えております。決して片一方に偏るようなのではなくして、やはり今、地域の先生方の所で診られている方の後方支援としての機能というものを絶対的に確保しておかないといけないかなとは考えております。

(委員)

どうも、ありがとうございます。

(委員長)

他に、いかがでしょうか。何かございますでしょうか。

(委員)

ちょっとそうしたら、いくつか簡単な所ばかりなのですが、質問と説明もしお願い出来たらという所、お話しします。1つ目がですね、前文の所ですね、(変更案)というよりは、新旧対照表をご覧になっていただいた方が早いのでしょうかけれども、現行の、計画の第4段落で、南海トラフ巨大地震の事が触れられているのは削除になっているのですよね。他との兼ね合いもあるのでしょうかけれども、これ全部削ったって何か理由があるのか、ちょっとお伺いしてもよろしいでしょうか。

(委員長)

いかがでしょうか。

(鳴門病院)

こちらはですね。現行の所では、加えてからの部分で、徳島県のそれぞれ当院だけではなくて、全体に共通する課題という事で書かさせていただいていたのですが、そちらの方は今回外部環境的な所は、文章としてはこの2行は削除させていただいて、第3期中期計画の取り組みに変えさせていただいたという所でございます。

(委員)

わかりました。ありがとうございます。あと、いくつか確認したいのが、確認というのではないのですが、計画自体の3ページの第2項の(1)のアの所で表があるのですけれど、本文も含めてここだけなんですよね、西暦が出て来るのが、これはこのままでいくのかどうなのか。2025年というのが出てくるのですけれども。

(委員長)

表の中という事ですね、はい。

(鳴門病院)

確かに、表の中と、文章の中は令和とか、和暦で書かさせていただいていますので、確かにここは、統一しても良いのかなといえますか。それの方が分かり易ければそうする事も検討したいと思います。

(委員)

それからですね、3つ目がですね、計画の5ページの所なんですけれども。第3の末尾、第3の5項の(2)、(3)なんですけれども、昨年書面開催もあって、変更した中期目標との関係で言えば、これ中期目標の記載と順番が逆になっているのですよね。結果として。中期目標の方の、4ページの頭の所に医師の働き方改革への対応を頭に持っていった結果、順番が計画と目標で逆になってしまっているんですけど。もちろん順番を合わせなく

てはならないという訳では無いと思うのですけれども、この辺いかなのかなと思った所です。

(鳴門病院)

はい、特に意図は無かったのですけれども、この医師の働き方改革という、(3)の見出しを追加という事なので、(2)を下にずらすのではなくて、その後に付け加えたという事で、(3)にさせていただきます。

(委員)

まあまあ、わかりました。

(委員長)

どうでしょう。両方合わせて、順番を揃えた方が良いのじゃないかという、ご意見。

(委員)

必ずしも合わせる必要は無いのかもしれないけど、目標と計画とその対比した場合に何となく順番が逆になってしまうと、分かりにくいといえ、分かりにくいのかなとは思っただけなんですけれどもね。

(鳴門病院)

わかりました。ちょっと、変更を検討したいと思います。

(委員)

最後1つだけ、計画の6ページの所で、これごめんなさい、私の理解が足りない所で、先程もさらっと何か説明があったような気もするのですけれども、新たに入る診療材料費対修正医業収益比率というのが出てきますよね。修正医業収益比率自体は、私も何となくは勉強したつもりなんですけど、この診療材料費対というのが付くとどういう意味になるのでしたっけ。ちょっとそこ私、理解がついていないので。

(鳴門病院)

はい、申し上げますと、当院では経費として、材料費というものがございまして、材料費には医薬品費と、診療材料費と、それから当院は直営の給食の材料と3つ程あるのですけれども、その中の診療材料費が、この修正医業収益比率を分母として、分子にはこう診療材料費だけが入ってくると。いう風な比率になります。

(委員)

費用の中で診療材料費だけを取り出した、という理解で良いのですか。

(鳴門病院)

仰るとおりです。

(委員)

わかりました。ありがとうございます、以上です。

(委員長)

いかがでしょう。何か、ご意見ございますか。

(委員)

今、直接的にこの計画に関係するという訳ではないのかもしれないのですけれども、ちょっとこの中で見て気になったのが11ページの所で、情報セキュリティー対策の徹底の所で、昨今、やはり半田病院ですとか、大阪の急性期の病院とかでもサイバー攻撃がありまして、そういった事例を受けて、何かこう現状で見えている、鳴門病院での懸念点とかがありましたらちょっと、教えていただきたいのと、またそういった事例を踏まえて、1回一通り、システム等を見直す、そういうプロジェクトとかを立ち上げるとかそういうご予定があれば、また教えていただきたいのですけれどもいかがでしょうか。

(鳴門病院)

はい、半田病院ですね、の事があって、直ちに当方の情報システム課という所が所管をしているのですけれども、そちらの方で対応策とかも検討させていただいておりまして、その後で鳴門の方でも、また、あったと思うのですけれども、そこで記事にも出ていましたけれども、オフラインのバックアップシステムですね、こちらを対応しておく事によって、復旧の高速度が全然違うと、いう事も判明しましたので、当院としても、オフラインのバックアップシステムの導入という事を直ちに検討に入りまして、基本的には今年度中にはですね、導入をしたいと、いう風な方向で進めている所でございます。

(委員)

はい、ありがとうございます。

(委員長)

私のほうから、今のオフラインのバックアップというのは、やっぱりLTOか何かによるバックアップを予定されているのでしょうかね。

(鳴門病院)

はい、仰る通り。LTOという事で、進めております。はい。

(委員長)

ちょっと私の方から確認をさせていただきたいのが、先程の吉田先生からのご質問にもちょっと関連するのですけれども、4ページの3、新興感染症等への対策の(1)の所で、リバーシブルな「地域包括ケア病棟」とあるのですけれども、このリバーシブルな、この病棟という所、ちょっと簡単に追加でご説明いただけたらと思います。いかがでしょう。

(鳴門病院)

病棟の中で48床分の1つの病棟、ワンフロアを潰しまして、それでコロナ病棟として、16床までの運用しております。ただこのコロナに関しましても、2類から5類とかそういう変化があった時には、やはり不足しております一般病床、地域包括ケア病床というものに戻して使いたいと考えております。ただ、この新興感染症というものはコロナに限らず、これからも色々なタイプのものが出て来たりする可能性があると思います。そういう時に、現在使っておりますような装備そういうものを再度、設置しまして、非常に短期の短期間の内にまた再度、感染症に対応出来る病床としておけば、非常に一般病床が大きい混乱する事無しに、出来るのではないかと考えております。その事をリバーシブルという表現、させていただきました。

(委員長)

ありがとうございます。現在各病院でやっている形だと一般病棟、コロナ病床に変換してゾーニングを置いたりすると結局、コロナの患者が減った場合に、それを一般病床に戻すのに非常に時間を要したりする所をこうゆう切り替えが出来るような病棟にして、運用しようというご予定という事ですね、ありがとうございます。

もう1点よろしいですかね。5ページの真ん中にある、(3)医師の働き方改革への対応の所なんですけれども、これ確認なんですけれども、鳴門病院はA水準を目指していて、宿日直許可も取得予定という事で良かったでしょうか。

(鳴門病院)

はい。当院は仰る通り、A水準を目標として、6年からやろうと思っています。宿日直の許可につきましては、現在一応、取っておりますけれども、そのあたりもう一度、見直しをして、現状に合ったもので再度許可を申請するかどうか今、検討をしている所でございます。来年の令和6年の4月に向けて、それは検討していきたいという風に考えております。

(委員長)

はい、ありがとうございます。他は、委員の方からは何か。追加でご発言等、ございませんか。

(鳴門病院)

よろしいでしょうか。

(委員長)

はい、どうぞ。

(鳴門病院)

先程の、オフラインバックアップの中身について、間違っておりました、ちょっと訂正をさせていただきます。

(鳴門病院)

先程、LTOと発言をさせていただきましたが、LTOではなく、外付けのハードディスクとNASを利用したオフラインバックアップとなっております。申し訳ございません。

(委員長)

はい、わかりました。ありがとうございました。他、どうでしょう、何かコメント等ございませんか。よろしいですか。

他にもし、ご意見等が無ければ、第3期中期計画(変更案)に関しては、評価委員会の意見としては、委員からご指摘のあった、マイナーな部分をどうするかという事ですけど、これに関しては、どういたしましょうか。マイナーな変更ですが今からですね、県議会への上程との関係がありますので、再度評価委員会を開くというのは日程的に難しいという事ですので、先程のマイナーな変更点に関しては、それを変更する予定で、お認めいただくか、ないしは、メール等で改めて、委員の皆様を確認していただいてから、確認していただくというか、そのどちらかになるかと思いますが。いかがでしょう。

(委員)

内容には全く関わりのない所ですので、一任いたしますので。

(委員長)

はい、わかりました。

じゃあ、先程の所はまた、検討していただくという事で、内容に関しては、特に変更等のご意見はございませんでしたので、この第3期中期計画(変更案)に関しては、評価委員会の意見としては、原案通りとするという事が適切とさせていただきますでよろしいでしょうか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

はい、ありがとうございました。

以上